

市民が集まり、憩い、楽しめる緑豊かな場所にいたしましょう



森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ (29年5月号)

平成29年5月1日

あちこちで鯉のぼりが見られる季節となりました。今月の活動日のお知らせです。

5月14日(日)

午前9時～11時 南口電停横「みんなの庭」の手入れを行います。北口駐輪場脇植込みも草が伸びて来ました。

午後2時～3時 薫風の中、帯屋町筋中央公園前で葛岡さんのギターと歌声に乗ってチラシを配ります。

6月の月例活動日は18日(日)、7月は16日(日)を予定しております。

4月のトピックス

○4月9日(日)

南口電停脇「みんなの庭」と旅広場駐車場脇植込みの手入れをいたしました。陽気に誘われて雑草もなかなか元気。予定の2時間では終わらず、翌日、翌々日の早朝に抜き残りをキレイに除きました。(写真①、②)。



①除草前



②除草後



③作業風景

○「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」?

(昔からのことわざ)

ある学校の桜並木です。ぱっさり伐られてこんな姿に(写真左)。事務室にワケを訊いたら「生徒が教室から身を乗り出して花枝を手折るので危ないから」とのこと。校庭隅この木は伐り残されて例年どおり目を楽しませてくれたのですが…(写真右)。



駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え(花苗提供、勤労奉仕、ご寄付など)をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥ 幹事連絡先：〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中田昌志 携帯電話：090-8849-3651 E-mail：m.nakata@ak.wakwak.com

公文敏雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：kumont2@yahoo.co.jp

ホームページ：<http://mori-kochi-eki.jimdo.com/>

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 代表中田昌志」名義 普通 0709695

「緑のまちづくり」を考える

(10) 春高樓の花の宴、巡る盃影さして・・・

— 岡豊山歴史公園に元親の夢をたどれば

この春、関東からやってきたというAさんと岡豊山で出逢いました。お城が大好きで、四国遍路の道すがら立ち寄ったといいます。名を知られた百名城よりも、廃たれた城趾のたたずまいに魅力を感じるのだそうです。舗装された登山道にやや違和感を覚えながらも、咲き乱れる桜の古木の連なりを楽しみながら中腹に差し掛かると、歴史民俗資料館の威容に目を奪われます。「ええ？何これは！」がAさんの感想でした。「城館のような建物を期待していたのですよ。」と興ざめ顔のAさん。何だか申し訳ない気分になりました。

もう一つの「がっかり建築」(景観・雰囲気ぶち壊しという点で)坂本龍馬記念館がある桂浜(浦戸城址)にAさんが足を伸ばさないよう内心願いながらお別れしました。



岡豊山歴史公園全景



登山道沿いの千本桜



高知県立歴史民俗資料館

話は変わって、今春開館した高知城歴史博物館の次に「あったらいいな」と思うのは、「浦戸湾歴史民俗史料館」(仮称*)です。室町時代、浦戸の海商は日本最古の海洋法「廻船式目」制定に関わったとされます。彼らは近海各地と交易したほか、南海航路の寄港地として琉球や中国と繋がっていた形跡もあります。また、浦戸に築城した長宗我部元親は「海の一領具足」ともいふべき強力な水軍を編成して、秀吉の小田原城攻めや朝鮮の役で活躍しました。土佐の森林資源を使った造船力がその支えでした。海援隊長坂本龍馬も、ルーツは浦戸・種崎にあると言えます。(参考書籍:「龍馬・元親に土佐人のルーツを見る」中城正堯著)

海への夢とロマンの世界を繰り広げる資料館を作るとすれば、それらしい容れ物であってほしいですね。もちろん松など緑を残して。(※カタカナ・平仮名表示は外国人観光客泣かせ。漢字名はアジア人=漢字が解る人が多いに好評だそうです。)

最後に、地方に在ってひとときわ光彩を放ち、観光スポットとして集客に成功している建物を見てみましょう。緑にも注目してください。(詳しくは各々のホームページをご参照)



那珂川町馬頭広重美術館(栃木県)
(歌川広重の浮世絵を展示。橋原町の木造建築群を手掛けた隈研吾氏設計)



多治見市モザイクタイルミュージアム
(タイル製造日本一の岐阜県多治見市が設立。藤森照信氏設計)